

1. 運 営 方 針

新型コロナウイルスの予防対策の取り組みを重点に置き、松楓園基本理念を念頭に支援サービスの見直しを図りながら安全で安心な生活環境の整備に努めました。

- 1) 【施設にコロナを持ち込まない】をスローガンに掲げ、職員の健康管理の強化及び定期的にPCR検査を実施することで感染予防対策の推進に努めました。
- 2) 不透明なウイルスによる感染症予防対策として、情勢の動向を見極め、情報を共有し、迅速に対応できる様にコロナウイルス感染症予防マニュアル及び発症時の業務継続計画マニュアルの策定に努め、業務全体の周知・理解を深める為に教育・訓練を実施しました。
- 3) 新型コロナウイルスの予防対策の一環として、入所者の方の日常生活の見直しを図り縮小した形で介護予防・生きがい活動を定期的に開催し、生活活動能力の低下防止に努めました。
- 4) 専門的な知識・技術を習得することで、認知症・精神疾患・知的障害・社会適応困難者の受け入れを行い、入所率の向上に努めました。

2. 運営管理

(1) 職員配置状況

(令和5年3月31日現在)

職 種	施 設 長	事 務 員	主任生活相談員	生活相談員	主任支援員	支 援 員	看 護 職 員	栄 養 士	小 計	調 理 員	医 師	そ の 他	合 計
基 準	1	2	1	3	1	6	1	1	16	4			20
										(1)	(1)		(2)
職員数	1	1	1	3	1	4 (5)	1 (1)	1	13 (6)	委託 4	委託 2		13 (6)

* () 非常勤

*非常勤(支援員)は5名で、常勤換算数は、3.28名となる。

(2) 職員状況

(令和5年3月31日現在)

	職 員 数	平均勤続年数	有資格者数 (非常勤含)	保有率
常 勤	男子 4名	13.5年	介護福祉士 5名	26.3%
	女子 9名		介護支援専門員 2名	10.5%
	13名		社会福祉主事 9名	47.3%
			ヘルパー2級 5名	26.3%
			上級救命 12名	63.1%
			衛生推進者 3名	15.7%
			防火管理者 2名	10.5%

(3) 職員採用・退職者数(常勤)

採 用	1名
-----	----

退 職	1名
-----	----

(4) 福祉サービス第三者評価受審結果(受審評価機関 株式会社 福祉規格総合研究所)

1) 事業所が特に良いと思う点として3つの評価

- ①広角的な教育による職員のスキルアップと標準化に取り組んでいる。
- ②基本理念として入所者の人格・意思を尊重したサービスの提供を心がけている。
- ③十分に感染予防対策を講じた上で可能な限り施設内の様々な活動を継続し、入所者の生活意欲や介護予防意欲の維持・向上に努めている。

2) さらなる改善が望まれる点

- ①感染収束後に向けて外出の支援が進み、入所者の生活の幅が一層広がることを期待する。
- ②増加する要介護の入所者ニーズに対応していく、個別支援向上への取り組みを進めたい。
- ③安定した運営のため、入所者の確保が重要な課題となっている。

(5) 各運営委員会の取り組み

諸会議を開催することにより、情報の共有・伝達を円滑に遂行し、生活支援サービスの改善・強化に努めました

- 1) 職員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 年12回実施
- 2) 運営会議・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 年10回実施
- 3) ケアカンファレンス会議・・・・・・・・・・・・・・ 年33回実施
- 4) 危機管理運営委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 年9回実施
- 5) 感染症予防対策委員会・・・・・・・・・・・・・・ 年10回実施
- 6) 介護予防事業運営委員会・・・・・・・・・・・・・・ 年12回実施
- 7) すがお広報誌編集委員会・・・・・・・・・・・・・・ 年4回実施
- 8) 防災・設備安全検討委員会・・・・・・・・・・・・・・ 年6回実施
- 9) 職場安全衛生会議・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 年8回実施
- 10) 居室移動検討会議・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 年7回実施
- 11) 身体的拘束適正化検討委員会・・・・・・・・・・・・・・ 年7回実施

(6) 人材育成

- 1) メンタルヘルスケアでは、自己チェック診断表で、自己管理の重要性を示し、必要時に精神科の医師のアドバイスを受け、職員の精神的ケアの取り組みの推進を図りました
- 2) 新型コロナウイルス感染症予防による非常時対応実践研修や安全な防護服装着訓練の推進を図りました。
- 3) 外部研修については、新型コロナウイルスの感染予防の為、参加を見合わせました。

【各運営委員会研修】

【感染症予防対策委員会】研修	6月	食中毒/コロナウイルス対応
	11月	コロナウイルス/ノロウイルス対応
【危機管理運営委員会】研修	3月	高齢者の心理/行動
	3月	接遇マナー/言葉遣い
【身体拘束適正化委員会】研修	7月	高齢者虐待防止と身体拘束
	11月	虐待の芽チェックリスト/尊厳のあるケア

(7) 苦情解決・相談

- 1) 苦情解決窓口の設置・なんでも箱の設置・各懇談会等の開催等で、入所者の意見・要望・日常生活の問題点を汲み取り、個々の生活環境の安定を図りました

* 苦情解決窓口申し出：0 件

- 2) 第三者委員によるなんでも相談窓口の開催、満足度アンケート調査については、新型コロナウイルス感染予防の為、見合わせました。

(8) 安全対策

1) 事故予防対策

職員の危機管理意識の強化及び認識の統一化を図るために、事故報告／ヒヤリ・ハット報告判断基準書及び入所者個々の生活動作関連支援（ADL）を吸い上げ、起こりうるリスクに対して、事案によりきめ細かく対策を講じることで、生活環境の安全整備に努めました。また福祉用具の適正な利用がなされているのか、検証を重ね安全対策を図りました

ア. 事故報告—5 件（入院 2 件）（令和 3 年度：3 件）

転 倒／3 件

事故要因として、感覚、視覚、神経系などの加齢に伴う身体的な機能低下が主な一因となり、要介護者・精神疾患患者・認知症の方の事故リスクが高い状況にあります。

イ. ヒヤリ・ハット報告—1 件（令和 2 年度：2 件）

転倒で、事故報告と同様に心身の機能低下が要因となっています。

ウ. コロナウイルス 年末年始にかけて入所者 28 名・職員 5 名がコロナウイルスに感染。感染拡大防止対策を実施、施設内で療養・介護を実施して重篤化される方はおらずに収束しています。

<ヒヤリ・ハットメモの活用>

職員一人ひとりがヒヤリ・ハットメモを常に持参し、気づいた時点でメモを取ることで、職員が事故を未然に防ぐ意識を高め、日常生活に潜む危険性を察知、改善する能力の向上を目的として推進してきました。

<転倒予防対策活動>

自主・自立が前提となる養護老人ホームに於いては、入所者の危機意識の向上が不可欠である為、日常生活に潜む危険度を検証し、入所者の方に判りやすく生活の中で起こりうる場を紹介する壁新聞を掲示し、入所者・施設長懇談会などで予防の必要性の意識浸透を図りました。コロナワクチン接種後の副反応による発熱などの症状が転倒事故につながる可能性があり、入所者個々の特性を把握・周知することで予防に努めました。

2) 災害対策

施設は人命を預かる場として災害対策は何よりも重要な課題であり、応急救護・避難訓練など知識・技術の向上に努めました。令和 4 年度も防災・設備安全検討委員会が中心となり、近い将来に発生が予想される大規模な広域災害に備え、あらゆる場面を想定しながら安全対策に努めました

① 防災設備の取扱いの充実 (令和4年度の実績)

- ・屋内消火栓・消火器取扱い訓練.....年5回
- ・非常通報設備・スプリンクラー・非常放送設備取扱い訓練.....年3回

② 応急救護・避難訓練等の知識・技術の習得 (令和元年度の実績)

- ・避難訓練(夜間想定).....年3回
- ・避難訓練(地震・火災想定).....年6回
- ・〃(日中想定).....年3回
- ・町内会主催・防災講習会.....年1回
- ・夜間呼出し訓練.....年1回
- ・応急救護(施設内).....年1回
- (災害用機器取扱い訓練)
- ・風水害訓練.....年1回

上級救命取得者13名 (令和3年度10名)

コロナ感染予防に務めながらも施設独自に防災動画を作成して活用するなど、訓練内容を工夫しながら防災教育に努め、必要な知識・技能の維持向上を図りました。

3) 情報開示・管理

- ① パソコン情報管理・禁止規定を定め、保有の管理強化とルールの周知徹底及び職員の意識の向上を図る為に所定の場所に掲示し、また月一回のPC情報禁止事項確認及びPCウイルスチェックを遂行し、情報の共有・保有のルールの確立に努めました。
- ③ すがお広報編集委員会が中心となり、広報誌のすがおを年4回発行とホームページを定期的に更新し、施設のサービス・システムの情報等を開示することにより施設の透明性を高めました

(9) 利用者状況 (定員数：100名 令和5年3月31日現在)

1) 在園者数 男性39名 女性49名 合計88名 (ショート2名含む)

2) 入所者状況 16名

(内訳) 男性9名 / 女性7名 (内虐待入所者1名)

宿泊所.....1名

ホームレス.....1名

病院.....3名

老健.....1名

居宅.....10名

介護認定者.....8名

(要支援1-1名 介護度1-3名 介護度2-3名 介護度3-1名)

3) 退所者状況 (16名)

在宅復帰.....1名 介護保険施設.....1名

長期入院.....1名 措置替え(養護).....1名

サービス付き高齢者住宅.....1名 介護医療院.....2名

有料老人ホーム.....2名 死亡.....7名

4) 平均年齢 男性(80.9歳)

女性(82.3歳)

総平均 81.7歳

5) 令和4年度平均稼働率 87%

6) 最高齢者 男性 92歳 女性 103歳

7) 平均在園期間 男性 6年4ヶ月 女性 6年5ヶ月 平均 6年5ヶ月

8) 保健・医療関係

① 死亡者疾患別分類 (7名/前年度10名)

病名	男性	女性
摂食障害	1名(90歳代)	
中咽頭癌	1名(70歳代)	
急性呼吸不全	1名(70歳代)	
急性心不全	1名(80歳代)	1名(90歳代)
老衰		1名(90歳代)
脳梗塞後遺症	1名(70歳代)	

月別入院実数 (人/前年度6人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
男	3	3	4	4	3	0	2	2	2	1	1	3
女	4	4	3	4	6	4	3	4	4	4	4	3

② 在園者主たる疾患調べ(複数記載)

疾患名	男	女	合計	疾患名	男	女	合計
高血圧	27	25	52	白内障	1	6	7
心疾患	7	10	17	便秘	6	7	13
脳血管疾患	7	3	10	精神疾患	7	18	25
関節疾患	6	9	15	認知症	9	11	20
高脂血症	9	6	15	糖尿病	5	9	14
陳旧性結核	5	4	9	癌	1	2	3

③ 認知症度分類(長谷川式、柄沢式)被検者88名

		60代 (3名)	70代 (39名)	80代 (39名)	90才以上 (7名)	合計
重 度	男	0	2	4	0	6
	女	0	6	3	2	11
中 度	男	0	4	5	0	9
	女	0	0	4	2	6
軽 度	男	0	3	5	1	9
	女	0	3	5	2	10
正 常	男	0	9	6	1	16
	女	1	8	11	1	21

9) ADL 状況 85名 (入院者3名/欠員12名/ショート1名)

歩行	全介助 (車椅子)	9名	補助具使用	26名	自力	50名
食 事	居室配膳介助	13名	配下膳介助	25名	自力	50名
洗 濯	全介助	39名	一部介助	7名	自力	39名
入 浴	全介助	7名	一部介助	45名	自力	33名
排 泄	全介助	7名	一部介助	46名	自力	32名
着脱衣	全介助	6名	一部介助	30名	自力	52名
身辺整理	全介助	25名	一部介助	30名	自力	30名
服薬管理	全介助	66名	一部介助	9名	自力	10名
シーツ交換	全介助	45名	一部介助	16名	自力	24名
通 院	全介助	76名	一部介助	0名	自力	9名
預かり金	小口現金預かり	0名	通帳預かり	59名	自力	26名

10) 外部サービス利用状況

新型コロナウイルス感染症予防の為、訪問介護・通所介護のサービスの利用は、休止しました。訪問介護・通所介護での入浴サービスにつきましては、施設の入浴システムの見直しを図り、施設による安全な入浴ケアを提供しました。

介護認定者 (14名) 令和5年3月31日現在

介護度	男 性	女 性
要介護度V	1名	2名
要介護度IV	1名	2名
要介護度III	0名	1名
要介護度II	0名	2名
要介護度I	1名	2名
要支援II	1名	0名
要支援I	0名	0名

3. 入所者サービス関係

(1) 食事サービス

楽しく食事が出来る環境づくりを心がけ、行事食・スペシャルメニューの実施を行い、入所者個々の心身の状況、摂取・身体状況に応じた食事が提供できるように努めました。更に入所者からの意見・喫食状況・検食者の意見等を献立に反映しました。

1) 給与栄養量

令和4年度の実施給与栄養量は以下の通りでした
年間平均

	給与栄養量	望ましい値
エネルギー	1 6 0 9 kcal	1 6 5 0 ~ 1 7 0 0 kcal
たんぱく質	6 0 . 5 g	5 3 g ~ 6 0 g
脂質	4 3 . 5 g	2 5 g ~ 4 7 g
カルシウム	6 3 5 m g	6 0 0 ~ 6 5 0 m g

- * 望ましい値は、入所者個々の身体状況を把握しながら「日本人の食事摂取基準」に基づいて、幅をもたせた数値に設定いたしました
食品成分表 2020 改訂に基づき、エネルギー量の算定に変更があり、エネルギー量が不足となっているが、前年度の提供量と差異はない。

	年間平均	望ましい値
炭水化物エネルギー比	6 4 . 1 %	5 0 ~ 6 5 %
脂質エネルギー比	2 4 . 0 %	2 0 ~ 2 5 %
動物性たんぱく質比	4 9 . 2 %	4 0 ~ 5 0 %

2) 特別食の提供

スペシャルメニュー：噛み噛み生姜焼き肉・土用食・噛み噛みハンバーガー食
噛み噛みバラちらし丼・噛み噛みお刺身食 計5回提供

3) 懇談会及び調査

入所者個々の心身の状況、嗜好及び摂取状況を把握するために以下の懇談会及び調査を実施し安定した食事提供に努めました。

栄養懇談会 2回 食事アンケート 1回 残食調査 1回

4) 栄養アセスメントの実施

入所者個々の身体状況・栄養状態を従来よりも詳細に記録を行い、「個別支援サービス計画書」にて栄養的課題：ニーズの記録を行い多職種による連携を図った。

(2) 保健・医療サービス

1) 感染症予防対策

感染症予防対策委員会を設置し、松楓園感染症予防対策マニュアルを基にまた松楓会衛生委員会との連携を強化し、その都度の早めの対策で、予防計画を実施し、蔓延防止に努めました

「予防結果」

感 染 症	予 防 対 策	結 果
結 核	結核検診（胸部レントゲン）	発症者なし
疥 癬	月1回の皮膚チェック・入園者、退院者の静養室対応・持ち物等の殺菌消毒	発症者なし
季節型 インフルエンザ	予防接種78名実施・手洗い・うがいの励行、消毒用アルコール設置、外出時にマスク着用、ポスターの掲示・懇談会等での利用者呼びかけ	発症者なし
感染性胃腸炎 (ノロウイルス)	ピューラックスによる建物消毒・ポスターの掲示 加湿保持・懇談会等での入所者呼びかけ	発生者なし
食 中 毒	消毒用アルコール設置、定期的な冷蔵庫チェック ピューラックス消毒・パンフレット配布 ポスターの掲示・懇談会等での入所者呼びかけ	発生者なし
新型コロナウイルス	手洗い・うがいの励行／マスク着用／定期的なアルコール消毒／換気／入所者・職員健康チェック 懇談会等での入所者呼びかけ 職員の定期的なPCR検査実施 入所者・職員のワクチン接種（5回済）	職員5名 入所者28名

2) 健康管理

虚弱化や精神疾患または認知症の入所者の方が増加する中、個々の精神面・行動面の状態把握を強化し、嘱託医や医療機関との連携を密にし、心身の安定に努めました。

(3) 介護予防サービス

- 1) 体操教室は、新型コロナウイルス感染予防の為、換気の強化、消毒の徹底、ソーシャルディスタンスを保つ小人数でのグループでADLに合せた専門の指導者によるプログラムを定期的実施し、自粛した生活の中で活動能力が低下しない様に介護予防の大切さを周知しました。

平均活動参加人数：67人 活動回数：32回

- 2) ボランティアのサポートで活動している脳の健康教室は、新型コロナウイルス感染予防を図りながら実施しました。

平均活動参加人数：16名 活動回数：10回

(4) 余暇活動サービス

新型コロナウイルス感染予防の為、外出自粛、施設内外の地域交流活動の自粛と制限された日常生活の中で、少しでも楽しみのある生活を過ごせるように様々な活動の見直しを図り、より多くの方の参加意欲を高めました。

カラオケクラブについては検討した結果、感染予防が安全に図ることが困難な活動内容の為、休止しました。

GW活動名	活動実績	開催数	参加延人数
園芸	外出自粛の中で、園庭で外気浴を楽しみながら、草花や野菜（ジャガイモ・胡瓜）を育てました。畑の土を整え、苗を植え、収穫まで草を刈ったり、水を補給したりと日々の手入れを行い、立派で沢山のジャガイモが収穫できました。	35回	495名
手工芸	各行事との連携を図り作品を手がけ展示し、またADLに合わせた活動内容の提供を図ったことで、多くの方の参加がありました。	29回	237名

クラブ活動	活動実績	開催数	参加延人数
華道クラブ	ホールにて、各テーブル1名で、ソーシャルディスタンスを保った配置で、マスク着用・換気と予防対策を図りながら、月2回の専門の方の指導を受け、季節の生花を活けることが出来ました。	16回	178名
茶道クラブ	ホールにて、マスク着用・換気など感染予防を図りながら、専門講師の指導を受けながら実施しました。	12回	82名
書道クラブ	ホールにて、各テーブル1名で、ソーシャルディスタンスを保った配置で、マスク着用・換気と予防対策を図りながら、月2回の専門の方の指導で、書道を習い成果を定期的に各階や敬老祝賀会・新年会等に展示しました	19回	221名